

## 第9回中国＝ASEAN 博覧会と習近平発言

2012.9.22

香港 花木

9月21日、広西チワン族自治区の区都南寧市で、2004年に始まってからこれで第9回目となる中国－ASEAN 博覧会（CAEXPO）が開催された。今年ちょうど中国＝ASEAN 自由貿易協定の締結10周年に当たるということで、ミャンマーのテイン・セイン大統領、ラオスのトンシン首相、ベトナムのグエン・タン・ズン首相ら ASEAN 各国首脳が顔を揃えた開会式では、習近平副主席が「中国とASEANの間の貿易額は、過去20年間平均で年20%以上という高い伸び率を維持しており、2010年以降はASEANにとって中国が三年連続で最大の貿易相手国になっており、また中国にとってもASEANは（EU、米国に次ぐ）第三の貿易相手国になっている」と指摘した。

また、注目を集める中国の外交姿勢については、「中華人民共和国成立以降60余年、また改革開放以降30年余が経ち、その間中国は現代化の面で目覚ましい成果を挙げたとはいえ、依然として中国が世界最大の発展途上国であるという事実は変わらず、同時に独立自主に基づく和平外交と、平和的発展・対外開放という基本的国策も変わらず、周辺国との間での善隣友好の姿勢も変化していない。」としたうえで、「中国は主権、安全及び国土の保全を維持するため、友好的対話に努め、領土、領海、海洋権益に関する争いの和平的解決に努め、覇を争い、覇を唱えることは永久にしない」と平和路線を強調した。

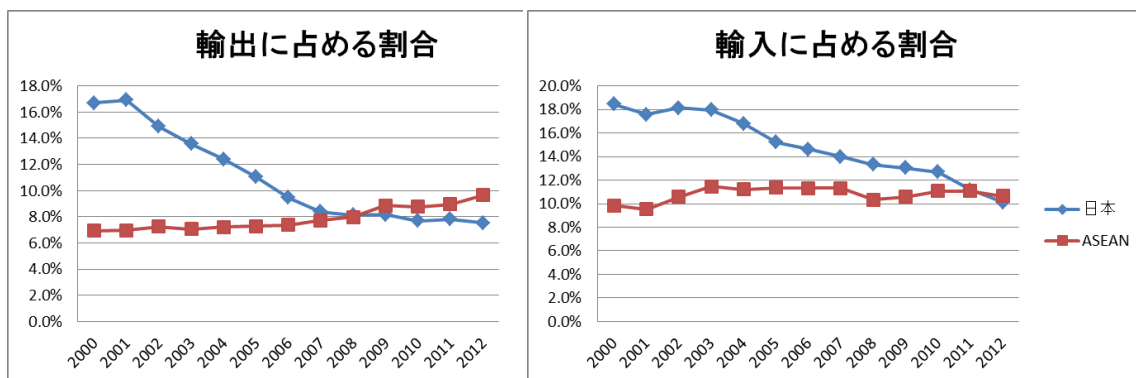
この演説は香港メディアでも非常に重視され、各紙で大きく報道されている。英字紙 *South China Morning Post* は、済南大学の張明亮教授の「基本的にこれまでの路線を踏襲しつつ、領土、領海、海洋権益に対してはより assertive なトーンとなっている」という分析を紹介、また経済日報では人気コラムニスト余木氏が「周辺国との友好関係の重要性を語りつつ、一方で主権や領土については譲らない姿勢を示したもの」であり、こうした方針が習近平政権の外交政策の基本となると解説している。また、中国政府に近い「大公報」は1面全面を使ってこの演説を紹介し、「日本は習近平演説をしっかりと理解せよ」との馬浩亮氏によるコラムを掲載、「中国は、南シナ海では善隣友好の精神で臨むとしても、尖閣諸島は誰がそこを抑えるかは将来のアジア戦略上きわめて重要な問題であり、中国は同様のスタンスで臨むわけではない」とし、「日本が友好の精神で中国に対するならば、中国の周辺国として恩恵にあずかることができるが、仮に今のような蒙昧な態度を続けるのであれば、現在より大きな圧力に直面するだろう」と警告を発している。

発言を大きく伝える22日付け香港紙→

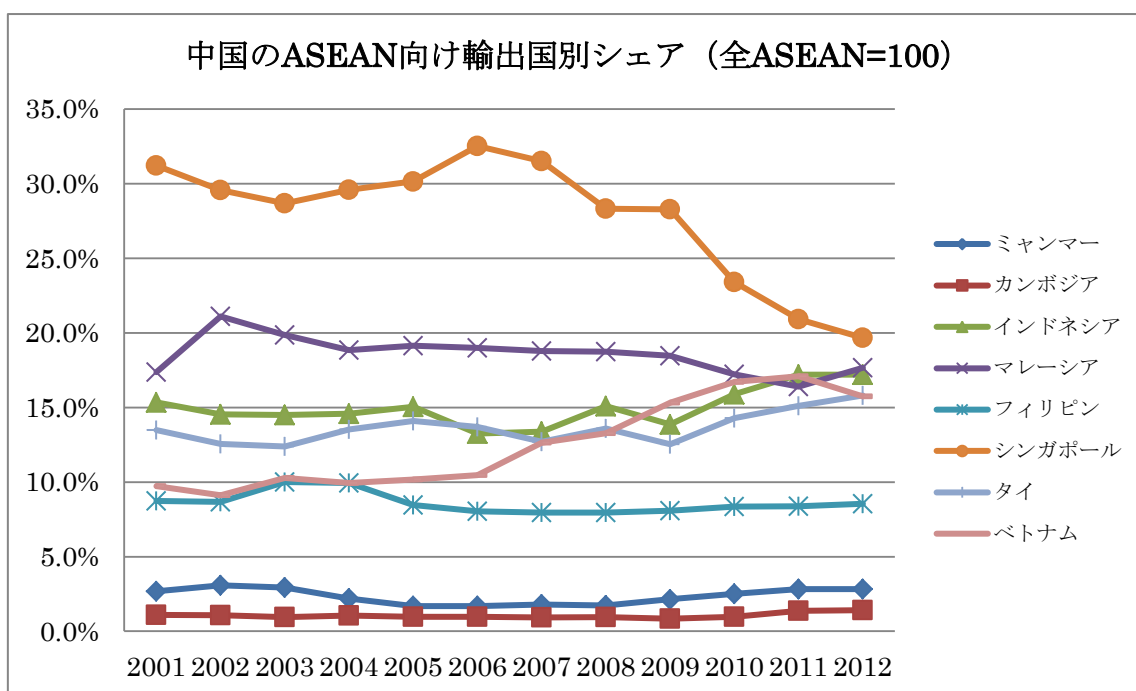


ASEAN との貿易が中国の貿易に占める割合は、習近平氏の指摘どおり、増加傾向にある。特に輸出に占める割合は 2008 年の世界金融危機以降、欧米・日本の割合が低下する中でむしろ増加傾向にあり、2012 年は全輸出の 10%を占める見通しである。

《中国と ASEAN との貿易動向（中国の輸出・輸入に占める割合）》



ただし、ASEAN と一口に言っても、国により状況は異なり、中国からの輸出が伸びているのは事実上ベトナム、インドネシア、タイの 3 か国のみである。



(1) 南寧及び博覧会会場の様子

広西チワン族自治区の区都、南寧市は面積 2.2 万 km<sup>2</sup> と四国を上回り、人口は約 670 万人である。広西チワン族はチワン族をはじめとする少数民族の多い地域であるが、南寧市に限れば漢族が 47%と多数を占めている。一人当たり GDP は約 4,000 ドルと全国平均 (5,500 ドル) を下回っているが、市中心部は商業サービス業が発達しており、若者が多い。



←南寧新市街地  
中央は市政府



中心市街地は若者でごった  
がえしている



博覧会の会場となったのは、市内の新市街地にある面積 15 万 m<sup>2</sup>の南寧国際会展中心である。2 階建ての展示施設には、1 階で今回のテーマである「科技合作」（科学技術協力）をテーマとした展示が、また 2 階では ASEAN 各国の展示が行われ、多数の人でにぎわっていた。



↑ ASEAN 博の会場である「南寧国際会展中心」。

## (2) 展示内容

ASEAN 博は主に貿易を中心にした展覧会であり、展示内容はそれぞれの国と中国との間の主要品目を概ね反映している。すなわち、中国の展示品は機械・電気製品で、ASEAN 側の展示品は農水産加工品や軽工業品（家具、靴、衣服等）である。以下に簡単に写真で展示内容を紹介してみたい。

① 中国の展示

インフラ整備用の建設機械やトラック、バス・自動車等の輸送機械のほか、工業用ロボット、太陽電池等が展示の中心である。



中国の展示ブース



なお、こうした民営企業の展示以外に、国有企業もいくつか展示ブースを構えていた。中には中国有色集団（CNMC）によるミャンマーにおけるニッケル鉱山開発の模型等、興味深い展示もあった。



↑ 鉱山（奥）から製錬所、港湾（手前）まで一貫した中国有色によるミャンマーの達貢山ニッケル鉱山の模型

## ② ASEAN の展示

国によりさまざまであるが、食品、軽工業品が中心で、その他に観光誘致のためのブースが設けられていた。



展示は国ごとに行われていた。



タイ



ミャンマー



ベトナム



カンボジア

### (3) ASEAN 各国との外交

中国＝ASEAN 博覧会は、単なる商談会ではなく、ASEAN 各国から首脳級を含む多数の高官が来場し、中国政府高官と意見交換を行う重要な外交の場になっている。今回も、ASEAN 各国は館内のあちこちで中国企業向けに投資誘致説明会を開催する等、中国との経済関係の強化に向けた取組みを行っていたほか、中国側も周辺の高級ホテルやレストランあちこちで ASEAN 高官を招待して意見交換を行っていた。

今回、ミャンマー、ベトナム、ラオスといった中国に直接国境を接する国々は首脳級をヘッドとする代表を派遣したのに対し、つい先日、スカボロー礁（黄岩島）を巡って漁船拿捕事件が起きたフィリピンは Roxas 内政長官を大統領特使として派遣したにとどまった。9月21日に習近平氏が面談したのは、ミャンマー、マレーシア及びフィリピン三か国の代表だが、それぞれ報じられたやりとりの内容は微妙に異なっている。ASEAN と一口に言っても、中国との関係の取り方、距離の置き方は様々であり、中国にとっても「近い ASEAN、遠い ASEAN」があるのである。

出席者ランク		中国側発言（報道ベース）
ミャンマー	テイン・セイン大統領	目下の両国関係は良好であり、今後は政治、経済貿易、人文、安全等各方面で中長期的な交流目標を定め、全面的な協力関係を構築していきたい。まずは重要プロジェクトをしっかりと推進するとともに、民生分野や農業協力への投資を強化し、政治面での協力も強化していこう。 ※：テイン・セイン大統領は9月14日にもヤンゴンで呉邦国全人代委員長と面談している。
マレーシア	Muhyiddin 副総理	両国関係は良好であり、マレーシアは中国の対 ASEAN 関係深化の最前列に位置している。マレーシアは中国の対 ASEAN 貿易における最大のパートナーであり、今後は工業園區や金融、人材育成等を通じて投資面での協力を拡大していきたい。中国と ASEAN の協力は、アジアの工業化のエンジンだ。
フィリピン	Roxas 内政部長（ラモス大統領特使）	昨年のアキノ大統領訪中時に、胡錦濤総書記との間で中比協力と南シナ海問題について共同認識を得たところだ。中比関係はその後一時困難な時期があったが、双方の対話を通じて現在はやや回復している。今後こうしたことが再度起きないように希望する。